

3.8国際女性デー アピール(案)

3.8国際女性デーは、1857年にニューヨークの被服工場で起きた火災により、多くの女性労働者が亡くなったことを受け、低賃金や長時間労働に抗議した女性たちの行動が起源であると言われています。

この日は、女性の政治的自由と平等のために行動する記念日として位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳と人権を象徴する「バラ」をシンボルに、世界各地でさまざまな運動や行動が、今も続けられています。

連合は、1996年から春季生活闘争の中に国際女性デーを位置づけ、全国各地で統一行動を実施してきました。30年近くにおよぶ皆さん一人ひとりの不断の努力により、出産後も働き続ける女性は増え、管理職などに占める女性の割合も着実に前進しています。しかし、部長相当職における女性管理職の割合はいまだ8.7%にとどまっています。

意思決定の場に女性の声が十分に反映されていない現状は、決して女性だけの問題ではありません。多様な視点が集まってこそ、私たちの暮らしに即した、公平で持続可能な社会は実現します。その実現を妨げている要因の一つが、依然として是正されない長時間労働です。若い世代を中心に仕事と生活に対する価値観が変化する中、ジェンダー平等の観点からも、長時間労働の是正に取り組むことが求められています。

今年の3.8国際女性デーのテーマは「誰もが働きやすい職場をつくり、多様性を認め合う社会を実現しよう!」です。今日ここに結集した働く仲間とともに、年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず、すべての人の人権が尊重され、自分らしく働き、暮らすことのできる社会をつくりましょう。

私たち一人ひとりが、「変えられる側」ではなく「変えていく側」であることを心に留め、誰もが意思決定に関わり、社会づくりに参画できる未来に向けて、心ひとつに取り組みを進めていきましょう。

2026年3月7日

連合兵庫・東部地域協議会合同

「2026春季生活闘争 政策・制度要求実現総決起集会」